

がん患者と家族が求める医療政策

－ がん関係者アンケートの解析結果 －

【調査】東京大学 医療政策人材養成講座

【解析】特定非営利活動法人 日本医療政策機構

近藤正晃ジェームス

2006年3月19日

患者と家族の声を医療政策に反映させるために

- 医療政策は、国民が最も興味を持っている政策領域
- 患者や家族が抱える悩みの多くは、医療政策の変更なくして解決できない
- これまでの医療政策は、ごく少数の利害関係者の不透明な意思決定に基づいていたため、患者や家族の声がきちんと届いていなかった
- がん患者や家族は、近年、結束・連携し、様々な改革を推進してきた
- 患者と家族が何を求めているのかを正確に理解して、国民に提示し、政策変更を推進していくことが重要。そのためにがん関係者アンケートを実施
- 第1回大集会では中間集計を発表したが、今回は最終集計結果を発表し、がん医療の課題を再確認したい

がん関係者アンケートの結果

(2005年 ; n=1,836)

I がん関係者の7割ががん医療の現状に不満であり、また9割が患者の声は医療政策に反映されていないと思っている

II 不満の主な原因は、「保険制度(治療薬の承認と費用)のあり方」と「患者向け情報の欠如」にある。患者向け情報については、がん関係者の100%が医療情報統合機関が必要だと考えている

III がん関係者の大半が、患者の声を政策に反映すべく、積極的な情報提供、政策提言、政策の学習、がん患者団体の連合が必要だと考えている

アンケート調査と回答者の概要

アンケート調査

調査方法

- がん関係の患者会、メディア、および大会参加者にアンケートへの協力を依頼
- 郵送およびウェブにより調査

調査時期

- 2005年

実施主体

- 調査主体は東京大学医療政策人材養成講座
- 今回の解析は、日本医療政策機構（主査：近藤）が実施

サンプル数

- サンプル数は1,836名

回答者

• 回答者のがんとの関係は:

– がん患者	73%
– がん患者の家族	16%
– がん患者の遺族	10%

• 患者会への参加は:

– 現在参加している人	18%
– 過去に参加していた人	4%
– 参加したことがない人	78%

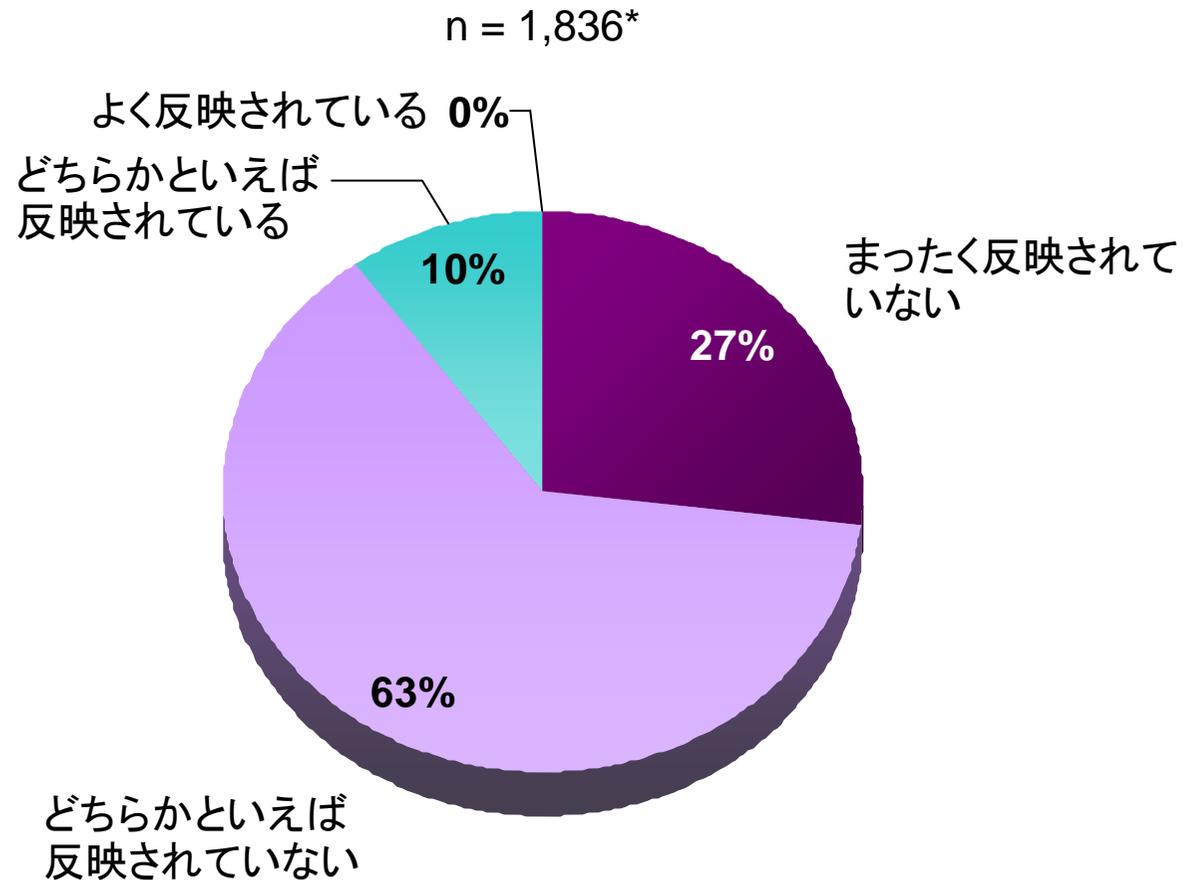
回答は、以下の3つの軸で日本全体の分布と合致するように調整

- 性別
- 年齢
- 原発のがんの種類

資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づき、日本医療政策機構が解析

図1 がん関係者の9割が患者の声は医療政策に反映されていないと感じている
(%; 2005)

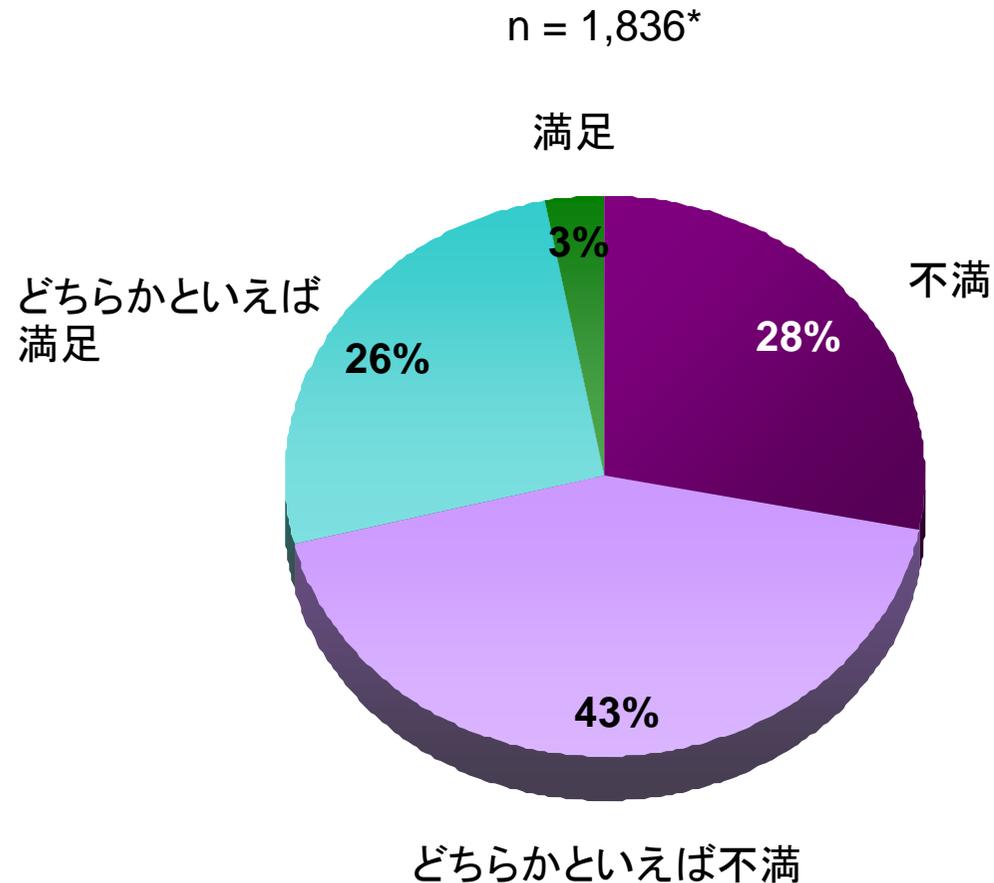
(問) がん患者の声は、現在、医療政策に反映されているとお考えですか



* 1,836名のがん関係者の回答を、日本における男女別・年齢別の原発のがんの種類の分布に基づき、同じ分布になるべく調整
資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づき、日本医療政策機構が解析

図2 がん関係者の7割が、がん医療の現状に不満である。満足は3%のみ
(%; 2005)

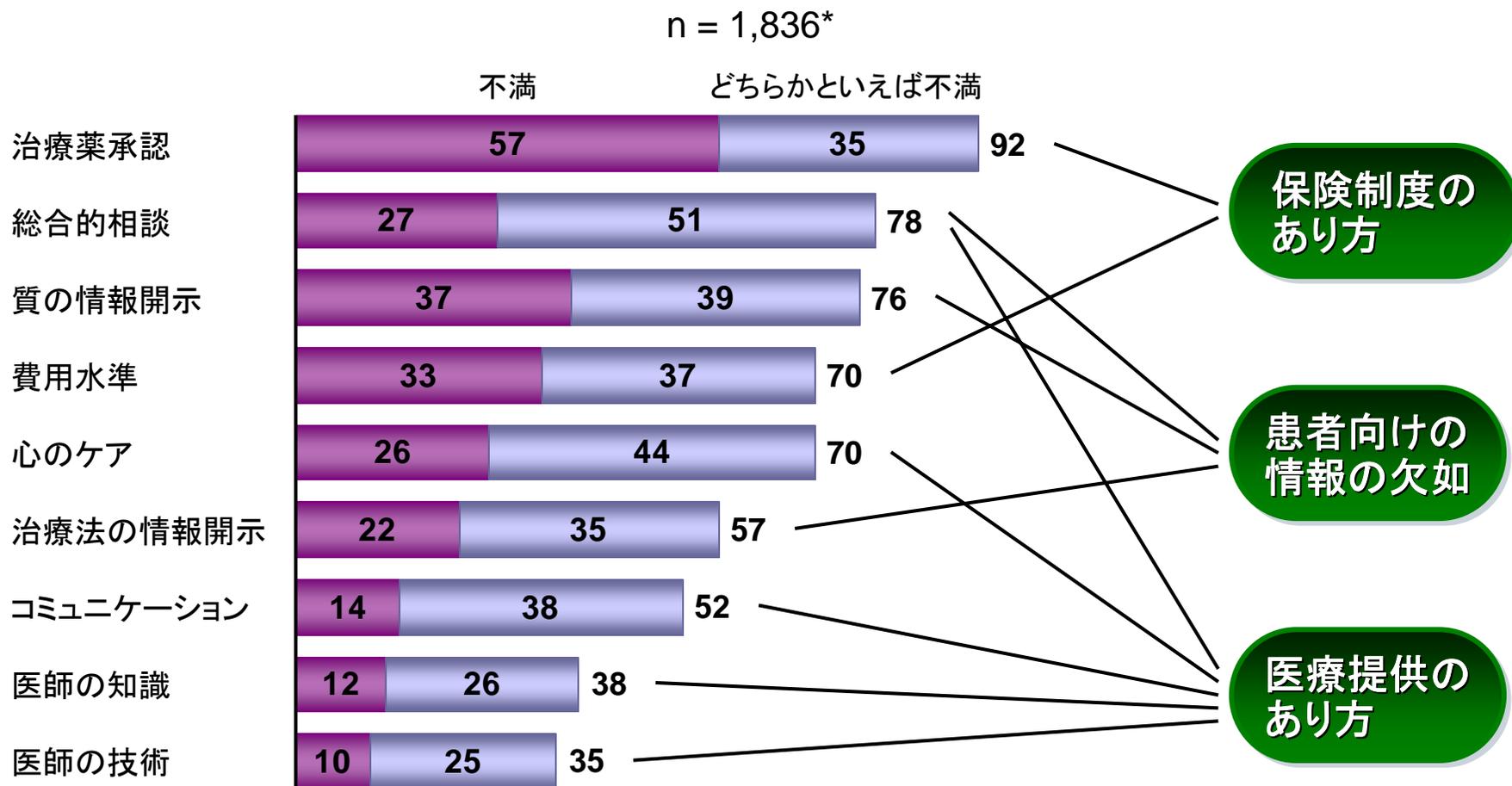
(問) 総合的にみて、日本のがん医療の水準に満足していますか



* 1,836名のがん関係者の回答を、日本における男女別・年齢別の原発のがんの種類の分布に基づき、同じ分布になるべく調整
資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づき、日本医療政策機構が解析

図3 不満の主な原因は、「保険制度のあり方」と「患者向けの情報の欠如」にある
(%; 2005)

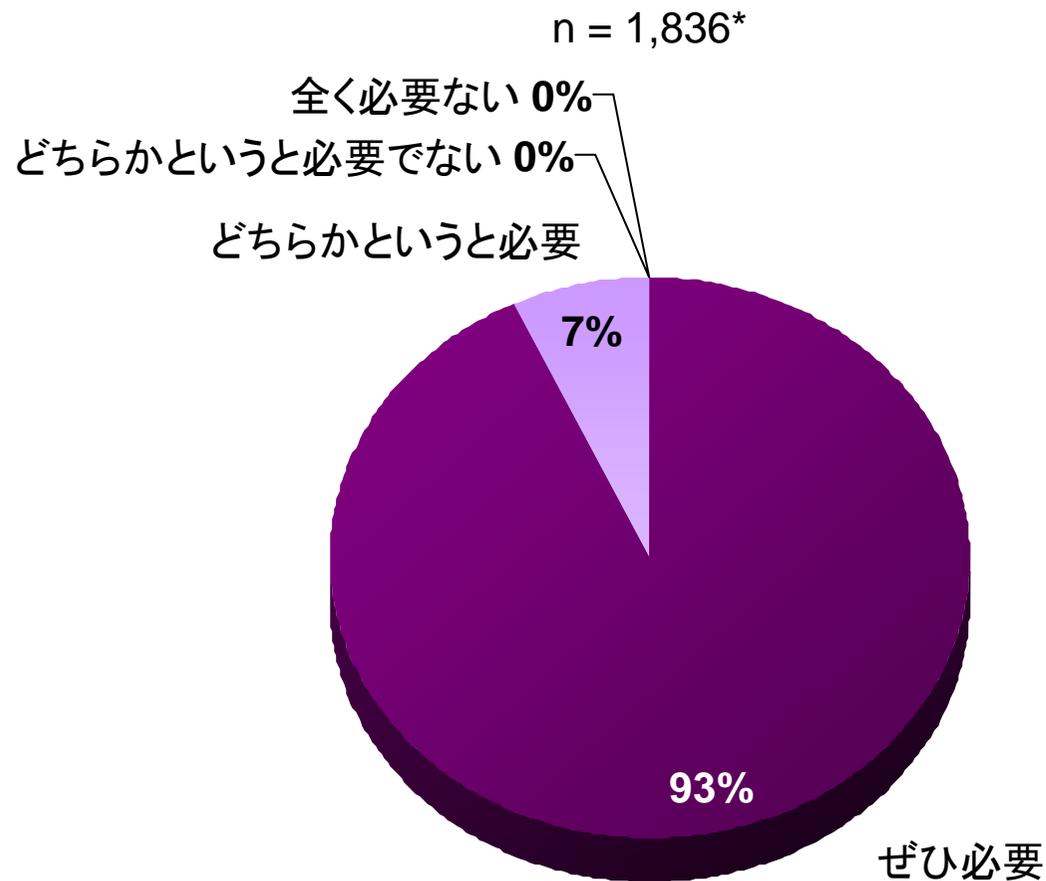
(問) 日本のがん医療を改善する上で、以下の各項目について、どのように思われますか。



* 1,836名のがん関係者の回答を、日本における男女別・年齢別の原発のがんの種類の分布に基づき、同じ分布になるべく調整
資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づき、日本医療政策機構が解析

図4 がん関係者の100%が医療情報を統合する機関が必要だと考えている
(%; 2005)

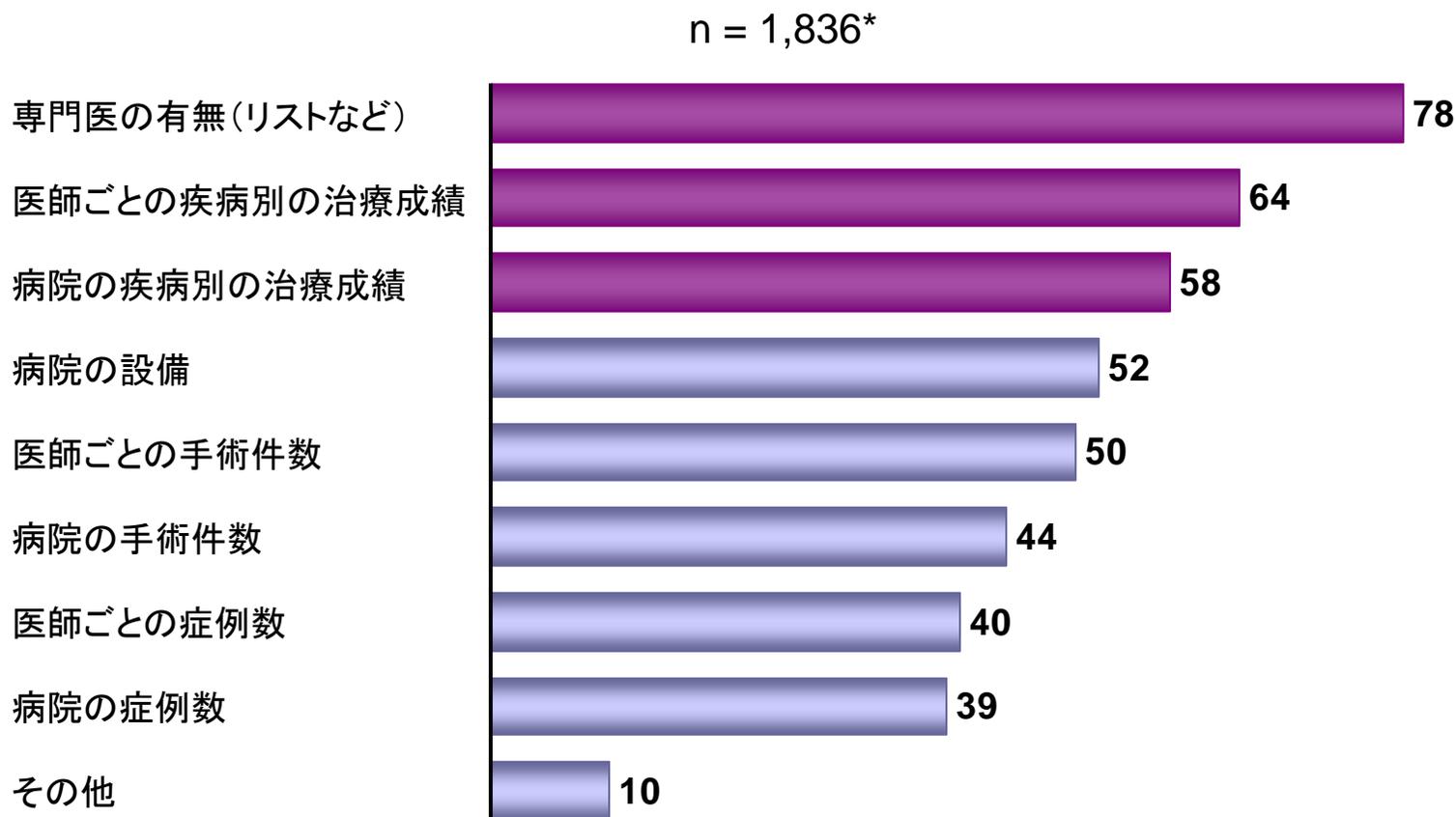
(問) がん医療に関する信頼できる情報を統合して提供する機関は、必要ですか。



* 1,836名のがん関係者の回答を、日本における男女別・年齢別の原発のがんの種類の分布に基づき、同じ分布になるべく調整
資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づき、日本医療政策機構が解析

図5 専門医の有無と、医師・病院ごとの疾病別の治療成績が特に求められている
(%; 2005; 複数回答可)

(問) これまでの診療経験から総合的にみて、患者・家族にとってどのような情報が必要だ(不足している)と思いますか



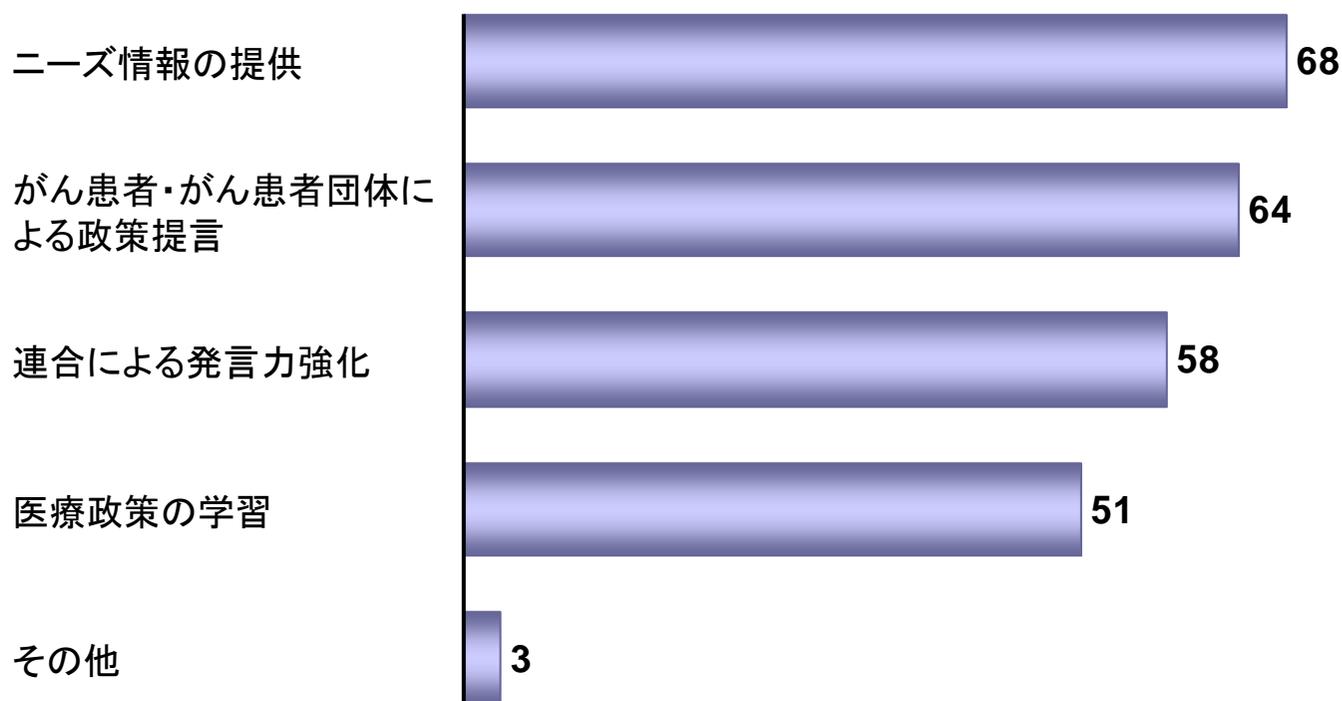
* 1,836名のがん関係者の回答を、日本における男女別・年齢別の原発のがんの種類の分布に基づき、同じ分布になるべく調整
資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づき、日本医療政策機構が解析

図6 患者による、より積極的な、情報提供、政策提言、連合が必要である

(%; 2005; 複数回答可)

(問) がん患者の声を政策に反映させるために、がん患者がより積極的に行うべきことは何だとお考えですか

n = 1,836*



* 1,836名のがん関係者の回答を、日本における男女別・年齢別の原発のがんの種類の分布に基づき、同じ分布になるべく調整
資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づき、日本医療政策機構が解析

患者と家族の声を医療政策に反映させるために

- 患者や家族の声をきちんと政策に反映することが不可欠
- そのためには、患者の結束・連携、患者ニーズの情報提供が重要
- がん患者の優先政策課題は、「保険制度」と「患者向け情報」
- 「保険制度」の鍵は、患者代表が意思決定に恒常的に加わること
- 「患者向け情報」の鍵は、患者主導で必要な情報を規定し、最重視する情報から優先的に整備すること。具体的には、「専門医の有無」と「医師・病院ごとの疾病別の治療成績」に注力すべき
- がん患者の活動は、「患者主導の医療」確立のためのモデルケース

特定非営利活動法人 日本医療政策機構

**<http://healthcare-policy.org/>
info@healthcare-policy.org**